

Title	雜纂：歐米外科巡曆談
Author(s)	大澤, 達
Citation	日本外科宝函 (1936), 13(1): 177-187
Issue Date	1936-01-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/205585
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

雜 纂

歐 米 外 科 巡 歷 談

京 都 帝 國 大 學 助 教 授

醫 學 博 士 大 澤 達

本稿ハ昭和10年9月20日京都外科集談會ニ於ケル演說筆記ニ多少演者ノ加筆サレタモノデアル。(幹事)

其 一 伯 林

今晚ハ私ノ在外中ニ巡歴シタ歐米諸國ノ外科ニ就テ其ノ見聞シタコトヲ座談的ニ御話シ度イト存ジマス。然シ諸君ハ今迄度々先生方ヤ諸先輩ノ方々カラアチラノ外科ノ様子ヲ御聞キニナツテ居ラレ、殊ニ最近御歸リニナラレマシタ伊藤先生カラ此頃ノ様子ヲ御聞ニナラレタバカリナノデ、今晚此ノ様ニ多數御集マリノ諸君ニ私カラ果シテ面白イ話ガ出來ルカドウカ甚ダ心モトナイ氣ガ致シマス。

私ハ1昨年3月文部省在外研究員トシテ歐洲ニ向ヒマシタガ、渡歐ノ最大ノ目的トシテ先生カラ言ヒ付カリマシタコトハ先年日本外科學會宿題トナツテ教室員ノ苦心努力シタ食道外科ノ業績ヲ、其ノ際作製發表シタ「フィルム」ニヨリ獨逸外科學會ヘ發表スルコトデアリマシタ。獨逸ノ學會デ吾々ノ業績ヲ發表スルト云フコトハ非常ニ痛快ナコトデアリマスガ、例ノ「フィルム」ノ上映ニハ長時間ヲ要スルコトデモアリ易々ト此ノ目的ヲ達スルコトガ出來ルカドウカ、吾々ノ業績ニ對シテ特別ノ價值乃至興味ガ向ケラレナイ限リ中々難カシイ問題デアリ、又若シ彼等ガ日本ノ業績ヲ日頃輕視シテ居ル様ナコトデアレバ益々容易ナコトデハナイト思ハレ、外國ノ事情ニ通ゼズ私ハ內心不安ヲ感ジナガラモ教室ノタメ惹イテハ國家ノタメ飽クマデ目的ノ貫徹ヲ期シ、出發前ニハ持參ス可キ歐文食道外科別刷ノ校正ヲ急イダリ、「フィルム」ヲ新タニ整理シタリ、文部省ニ出頭シテ「フィルム」携帶學會發表ノ承認保證ヲ得タリ、税關ニ行ッテ通關ノ手續ヲ經ルナドアハタシク此準備ヲ整ヘタ様ナ譯デシタ。

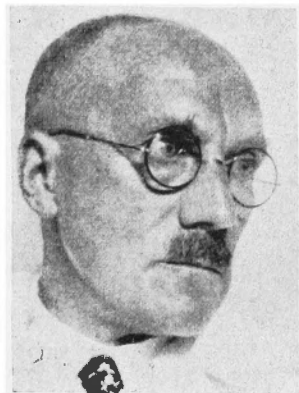
途中海路ヲ旅ハ文部省關係ノ先生方ヤ醫師モ多カツタノデ實ニ愉快ナモノデ、マルセイユニ上陸一路獨逸ニ向ヒ4月ノ末ニハ既ニ辻村君ニ迎ヘラレテ柏林ノ人トナツタノデアリマス。

柏林デハ早速氣ニナル獨逸外科學會ノコトヲ訊ネマシタ所既ニ其年ノ學會ハ濟ンダ後ダト云フコトナノデ、ナニカ良イ方法ハ無イモノカト思ヒ前大阪醫大教授ノ Härtel ヲ訪問シテ相談致シマシタ。Härtel ハ5、6月ニ開催サレル各地方ノ外科學會ニ出シテハ如何ト薦メテ呉レマシ

タガ教室ノ大切ナ仕事ヲ折角コゝ迄持テ來タコトデアリマスカラ、成ラウコトナラ1年遅ラセテモ伯林ノ獨逸外科學會總會ニ出シテ花々シク發表シ度イ、地方外科學會ノコトハ其レガ出來ナカツタ場合ト決心シ、先ヅ其ノ準備工作トシテ Geh. Rat Prof. Sauerbruch ト Geh. Rat Prof. Borchard トニ會フコトニシ、1日 Härtel ト一緒ニ Sauerbruch ヲ Charité ノ教室ニ訪ヅレマシタ。其前日私ガ Härtel ノ室デ話シテ居ル間ニ Härtel カラ Sauerbruch ニ電話ヲ掛ケテ大體ノ用件ヲ話シテ貰ヒマスト彼ハ Japanischer Kollege Prof. Ohsawa ナラバ知ツテ居ルカラ早速會ヒ度イト云フテ居ルトノコトデアリマシタ。ソレデ廻診ガ濟ンデ自室ニモドツツS教授ニ初メテ會ヒマシタガ個人的ニ話シテ見ルト曾テ聞イテ居タ様ナ傲慢サハ無ク至極上機嫌ヲ私ノ食道外科ノ論文ヲ讀ンダコトヲ述ベタリ、私ノ旅程ヲ尋ネタリ、最後ニ明日カラ自分ノ教室ヘ來テハドウカト云フ話デアリマシタ。私ハ明日カラ教室ニ來度イコト及ビ日本カラ食道外科ノ「フィルム」ヲ持ツテ來テ居ル故、適當ノ機會ニ御見セン度イ旨ヲ告ゲ持參ノ歐文食道外科ノ別刷ヲ呈上シテ翌日カラ永年ノ間憧憬シテ居タS教授ノ Charité 外科ノ教室ニ通ヒ始メク譯デアリマス。

ザウエルブルッフ教授教室

Sauerbruch ハ相當高齢デアリマスガ中々ソウハ思ハレヌ矍鑠サデアリマシテ言葉ニモ舉動ニモ元氣ガアフレ、實ニ energisch ナモノデアリマス。講義ヲ聞イテモ手術ヲ見テモ生氣潑刺シテ居リマス。講義ハ學期ガ始マルト毎日11時カラ朝ノ手術ガスンダ後ニヤツテ居リマスガ最初カラ割合ニヨク解リマシタ。



ザウエルブルッフ教授

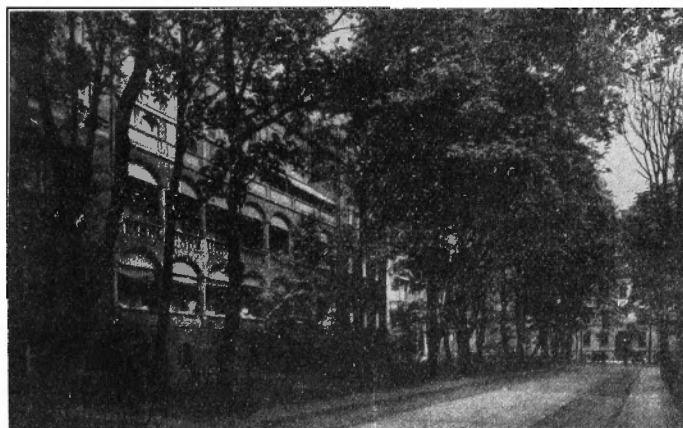
獨逸ノ大學ハ一般ニソウデアリマスガ講堂ノ設備ガ非常ニヨク例ヘバ電氣「ボタン」ヲ押スト直グニ暗室ニナリ、又講義材料ガ非常ニ豊富デ毎日ノ講義ニ常ニ4,5種類ノ患者ガ出、又講義設備ガ完備シテ居リ立派ナ Epidiascop, 數多イ標本ヤ掛圖ナド美マシイ様デアリマス。今度出來ルト云フ我が教室ノ講堂ノ設備モスクアリ度イモノト思ハレマシタ。サテS教授ノ講義ハハタノ疾患ニ就テ詳シク説明スルト云フヤリ方デハ無ク、寧ロ割合ニ簡單デ諧謔入りデアリナガラ、要點ノ所ハ極ク印象的ニ相當激越的ナ句調デ説イテ聞カセマス。學生ハ日本ノ様ニ先生ノ云ハレルコトヲ其マ、速記スル様ナコトヲセズ多クハ唯ダ聽イテ居リマス。「ブラクチカント」ハ時々不意ニ聞カレマスガ其ノ答ヘ振りカラ察スルニ今ノ獨逸ノ學生ハ割合ニヨク勉強シテ居ルコトガ解リマス。S教授ハ又講義ノ中ニ自家ノ經驗ヲ屢々語リマスガ之ハ學生ニモ吾々聽講者ニモ大變興味ガアリマス。

講義ガ濟ムト週1, 2回大急ギノ廻診ガアリマス。興味ノアル患者ダケ診テ行キマス。時々私ヲ手招キシテ説明シテクレタコトモアリマシタ。

S教授ノ手術ハ世界的ニ有名ナモノデアリマスガ、實ニ輕妙神速デアリマシテ如何ナル手術

モ一氣呵成、疾風迅雷的ニ行クノガ彼一流ノ仕方デアリマス。ソレ故一面粗暴ノ誹ハ免レマセンガ然シ仔細ニ觀ルナラバ早イ彼ノ操作ニハ一點ノ隙モ無駄モ無ク全精力ガ集中サレテ居ルノデアリ、要所要所ニハ精神ノ集中サレタ深イ慎重サガ窺ハレルノデアリマス。

例ノ Thorakoplastik ナド皮切ガ行ハレタト思フトモウ既ニ肋骨切除ガ行ハレテ居ルト云ツタ有様デ皮切、骨膜剝離カラ數本ノ肋骨切除ガ終ルマデ僅々數分ヲ出デマセン。乳癌ノ手術ナ



Charité 外科クリニック

ド全ク文字通り一瞬間デアリマス。胃癌、胃潰瘍ナド刀ヲ取ツタカト思フト胃ガモウツマミ出サレテ居ルト云ツタ調子デスカラ、少シ傍目デモスルモノナラ手術ハ大半進行シテシマツテ居ルノデアリマス。腎臓出ナド最後迄十數分カ、リマセン。然シ乍ラ流石ノ彼モ脳手術

ノ際ニハ此様な神速な態度ハ取りマセンガ、脳手術ノ如ク時間ニトラハレズ落チツイテ行ラナケレバナラナイ様な手術ハ恐ラク彼ノ性分ニ合ハヌ様ニ見え多クハ2次的ニ致シテ居リマス。伯林ノ外科ニハ脳外科ノ材料ガ相當ニアリナガラ餘リヨイ成績ヲ擧ゲテ居ナイコトモ首肯出來ルノデアリマス。

S教授モ稀ニハ失敗ヲヤリマス。アル時ソレハ丁度私ガ Tübingen カラ S教授ニ迎ヘラレテ伯林ノ教室ヘ食道外科ノ「フィルム」ヲ見セニ來タ時デアリマシタ。直腸癌ノ手術ヲ教授ノ背後ニ立ツテ見テ居ルト Kraske ノ方法デ Resektion ヲヤツタノデスガ例ノ如ク後ろノ切開口ニ手ヲ入レ成ル可ク早く腹膜ヲ破ルノダト云ヒナガラ blind ニ剝離ヲ續ケテ居ル中急ニ手ヲ引き出シ指尖ヲ嗅ギナガラ「ア破ツタ」ト叫ビマシタ。取り出サレタ直腸壁ニハ大キナ裂口ガアリマシタガS教授ガ此様ニ失敗ヲ卒直ニ認メ何等云ヒ譯ラシイコトモ云ハナイ態度ニ對シテ寧ロ私ハ好感ヲ覺エマシタ。然シS教授ノ如キ一氣呵成の手術ハ決シテ初學者ノ眞似ル可キモノデハナク、放膽ナル手術ハ上手ノ境ニアル人ノミノ爲シ得可キ仕方デアルガ上手ノ人ニシテ尙ホ此過失ガアルノデアリマシテ、曾テ諸先生ニヨツテ戒メラレタ御言葉「初學者ハ諸書ノ如ク手術シナケレバナラナイ、器用ハ最大ノ危険デアル」ヲ思ヒ起スヤ切ナルモノガアリマシタ。

S教授ノ手術ヲ見テ居ルト助手ハ随分手厳シク罵倒サレテ居リマス。唯叱ラレルバカリデナク時ニハ叩カレルノデアリマス。アル時乳癌ノ手術ノ鉤ノ掛ケ方が氣ニ入ラヌ様ダナト思ツテ見テ居ルト、イキナリ鈍鉤ヲ奪ヒ取ラレ其レデ右手ヲシタ、カ叩カレ Geh weg! ヲヤラレ控エノ助手ガ交代シマシタ。ソレ故S教授ノ手術ノ助手ニハ代リノ助手ガ何時モ器械ヲ渡シナガラ

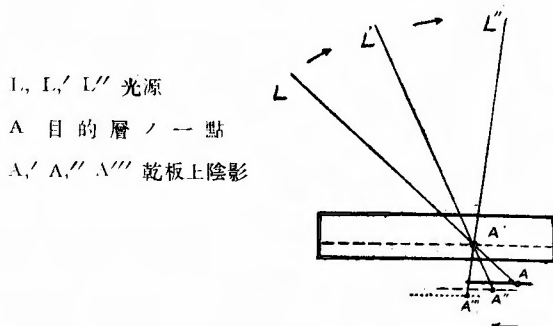
控エテ居ルノデアリマス。此様ニ叱ラレマシテモ助手ノ態度ハ誠ニ從順ナモノデ聊カモ奮激シタ様子ハ無ク他ノ助手連中モ亦タ之ヲ笑ツタリ眺メタリスル様ナコト無ク、ソコニ何ノ不平モ無イノデアリマシテ、丁度善良ナ子ガ親ニ叱ラレタト同ジ素直サ從順サデアリマス。此様ニシテ教授ノ手術ニ際シテハ全手術場靜肅ト緊張其モノ、如ク、教授ノ一言一動ニ對シテ全員ノ注意ガ動イテ行クノハ誠ニ側目ニモ立派ナモノデ、全教室員ガ一心同體トナツテ動イテ居ル有様ガ窺ハレルノデアリマス。

ス教授ノ手術以外ノ總テノ手術ハ助教授ノ Prof. Rütz ガ指導シテ居リマス。丁度私ノ参リマス前ニ例ノ猶太人放逐ガアリ前助教授ノ Prof. Nissen 以下5人ノ古参助手ガ追ハレ教室ハ一般ニ若手揃ヒデアリマス。朝行キマスト此人達ガ手術シテ居リマスガ Rütz ヲ除イテハ餘リ手ノヨク動く人が居ナイ様デス。

手術材料ノ豐富ナルコト驚クバカリデ各種ノ材料ガ集マリマス。就中此教室ノ Spezialität デアル胸部外科ノ材料ハ相當ニ多イガ就中肺結核ガ大部分デアリマシテ、S教授ガ München カラ伯林ニ招聘サレテ來ル時ニ、其條件トシテ建テラレタト云フ大キナ結核病棟ハ何時モ充満シテ居リマス。胸腔内手術ハS教授ノ所デモ餘リ多クハ見掛ケラレマセン。殊ニ私が當ニシテ参リマシタ食道ノ手術ハ遂ニ見ルコトガ出來マセンデシタ。Thorakoplastik モ近頃ハ paraver-tebrale Rippenresektion ヲ1度ニヤラズ、2次、3次ニ分ケテヤツテ居リマス。空洞ノアルモノハ盛ニ Plombierung ヲ行ヒ、Bronchiektasie ニハ獨特ナル totale Lungenlappenentfernung ヲ試ミテ居リマス。

例ノ無鹽療法ハ今日モ行ハレテ居リマス。Lupus ニ效クコトハ周知ノ通りデアリマスガ、結核腎手術後ノ Fistel ラコシラヘタモノ、骨關節結核ノ瘻孔アルモノニ效クトノコトデアリマシタ。

Nissen 去リシ跡ノ研究室ハ誠ニ淋シイ氣ガ致シマス。廣イ研究室デ仕事ラシイ仕事トシテハ Stoffwechsel ニ關スルコト位デアリマシタ。



L, L', L'' 光源

A 目的層ノ一點

A, A', A'' 乾板上陰影

此教室ノ Röntgenabteilung ハ中々振ツテ居リマス。Prof. Chaoul ノ胃粘膜撮影ニ就テハ御承知ノ通りデアルガ、此頃ヤツテ居ル肺臟斷層ノ深部撮影法ハ肺臟ノ深部ヲ逐層的ニ、然モ肋骨等他ノ陰影ヲ打消シ、目的ノ深部ノミヲ明確ニ寫シ出スコトガ出來ルノデアリマシテ、單純撮影デハ映ラナイ肺ノ小空洞ナドガヨク出テ居ル多數ノ寫眞ヲ幾度モ見セテ貰ヒマシタ。裝置ハ光源ト乾板トガ圖ノ如ク逆ノ方向ニ同速度ニ動くノデアツテ、光源、乾板ノ距離ヲ變ヘレバ任意ノ深部層ヲ寫スコト

ガ出來ルノデアリマス。此方法ハ恐ラク肺臟以外ノ實質臟器（例ヘバ腦脊髓腫瘍トカ肝臟深部腫瘍等）ニ應用出來ヨウカト思ツタコトデアリマシタ。此機械ハ Tomograph ト稱ヘテ最近賣出サレテ居リマスカラ大學ノ教室デモ是非一臺備ヘテ欲シイト思フノデアリマス。

Chaoul ノ所デハ又盛ニ Kurzwellentherapie ヲヤツテ居リマス。Siemens ノ裝置デアリマシタガ、Chaoul ハ少シ波長ノ長イモノヲ幾度モ繰リ返シテカケルノガ良イト云ツテ居リマス。望遠鏡式ノ細管ヲ當テルノデアリマシテ、顔面ノ皮膚癌ナドガ跡形モナク治ツテ居ルノヲ數人見マシタ。Kurzwellentherapie ハ獨逸デモ流行シテ居リ私モ伯林滯在中 Sanitas ノ講習ヘ10日間程通ツタコトガアリマシタ。

マクスス教授教室

伯林大學外科ノ Klinik トシテ世界的ニ有名デアツタ Bier 教授ノ Klinik ハ教授引退後一時閉鎖サレテ居リマシタガ、私ノ居ル間ニ再興サレルコトニナリ、Kirschner ガ來ルトカ Schmieden ガ來ルトカ或ハ Haberer デアルトカノ噂ガアリマシタガ、結局 Magnus ガ就任シマシタ。Magnus ノ所ハ新任早々ノタメカ Operation ハ割ニ少ナク時々手術ガアル位ナモノデアリマス。私ハ乳癌ト虫様突起炎ノ手術ヲ見タダケデアリマスガ、非常ニ美シイ確實ナ手術ヲスル人デアリマス。教授ハ骨折ノ大家ダケアツテ其ノ Klinik ニハ澤山ノ骨折患者ガ收容サレテ居リ殆ド Drahtextension ガ施サレテ居リマス。彼ハ如何ナル骨折ヲモ unblutig ニ治療スルコトヲ以テ聞エタ人デアリマス。私ハ伯林滯在モ殘リ少ナクナツタ時ノアル日最後ニ彼ヲ訪問シタ時、彼ト其室ニ語りマシタガ教室ノ食道外科ノ Arbeit ノコトヲ知ツテ居リ非常ニ好感ヲ示シテ呉レタノデ、大ニ愉快デアリマシタ。彼ハ立派ナ人格者デ其態度モ亦タ實ニ紳士的デアリマス。本年ハ獨逸外科學會ノ會長ヲヤリマシタガ、其ノ司會振ナドカラ見テモ誠ニ將來アル外科學者タト思ハレマシタ。

其他ノ外科「クリニツク」

伯林滯在中私ハ大學ノ Klinik 以外ニ時々市内ノ市立病院ナドヲ覗イテ見マシタ。Virchow 病院ト云ヒ Moabid 病院ト云ヒ何レモ規模宏大、設備ノ完全、羨望ニ値スルモノガアリマス。Virchow 病院ノ Prof. Usadel ハ Kirschner ノ高弟デアリマシテ、其ノ Klinik ハ手術ヲ始メ一切ガ恩師ノ粹ヲ學ビ良イ Klinik デアリマシタガ、昨年4月 Kirschner ガ Heidelberg ニ轉ズルニ及ビ、其ノ後繼者トシテ Tübingen ニ赴ムキマシタ。Augusta Hospital ニハ古クカラ腦外科ニ没頭シテ居ル Prof. Heymann ガ居リマス。以前ニハ餘リ手術成績ガ良クナカツタ様ニ聞イテ居リマシタガ、今度私ガ見テ居リマスルニ成績モ非常ニ良ク、材料モ豊富デ大抵1週3ツ位ノ腦手術ガアリマスノデ私ハ暇アル毎ニ行ツテ見マシタ。小サイ圓味ノアル愛ラシイ手ガサナガラ器械ノ様ニ、無駄無ク間斷ナク細カニ動イテ誠ニ氣持ノ良イ手術振デアリマス。小腦腫瘍剔出、三叉神經痛ニ對スル Gasseri 神經節剔出ヤ、Laminektomie ナドヲ思ヒ出シマスガ、其中 Ggl. Gasseri 剔出術ハ位置異常ノタメニ長時間ノ努力ニモ拘ラズ、第1回手術デハ遂ニ探シ出スコ



手術中ノ Prof. Hyemann

トガ出来ズ、翌日第2回ノ手術デ遂ニ剔出シタト云フ風デ何處迄モ追究のナ熱心ナ態度ニ感心シマシタ。少シ位ノ出血ハ止ムヲ得ナイ所ノ Laminektomie ヲ彼ハ「デアテルミーメツサー」ヲ用ヒテ殆ド無出血ニ開キマシタ。此例ハ Chordotomie ノ適應症ト思ハレル胸痛ノ患者デアリマシタガ、彼ハ hintere Commissur ニ長サ數厘ノ切開ヲ加ヘタノデシタ。

之ハ Heymann ノ Idee デ行ツテ居ル手術デアリマシテ彼ノ考デハ、Rückenmark 内ニ於ケル Vorderseitenstrang ト sensible Nervenfaser トノ連絡纖維ハ hintere Commissur ヲ通過スルカラト云フノデアリマス。從テ Chordotomie ノ際ニ惹起シ易イ障碍ヲ此手術ナラバ避ケルコトガ出來マスシ、手術モ此方が容易デアルト云フノデアリマス。翌日 Oberarzt ト一緒ニ患者ノ病床ヲ訪ツレテ見マスト胸痛ハ全ク消失シテ居リマシタ。

ゾンメルフェルト結核療養所

伯林 Stettiner Bahnhof カラ汽車デ約2時間走リマスト、Sommerfeld ト云フ田舎ニ市ノ結核療養所ガアリマス。病床 500 實ニ大規模ナモノデアリマシテ、綠濃キ森林ノ中ニ奇麗ナ病舎ガ建テラレ、森ノ木蔭ニハアチコチニ病人トモ思ヘヌ達者ソウナ患者達ノ散歩シテ居ルノガ見エマス。病床設備ガ晝夜ノ別無ク大氣ヲ吸收出來ル様ニシテアル事ヤ、大キナ日光浴場ヤ、冬期ニ於ケル大規模ノ紫外線浴場ナドガ目ニ付キマスガ、最モ私達ノ興味ヲ引クコトハ此ノ「サナトリウム」ノ外科設備ノ全ク行キ届イテ居ルコトデアリマス。中央ニ設ケラレタ大キナ立派ナ手術室、其レニ續ク外科ノ大病棟ヲ見ルト肺結核モ外科ノ領域ニ入ツタト云フ意識ガ強クナリマス。此病院ノ Chef デアル Prof. Ulrich ノ話デハ入院患者ノ約3分ノ1ハ外科ノ療法ヲ受ケルト云フコトデアリマシテ、其ノ統計ナドモ見セテ貰ヒマシタガ非常ニ好成績デアリマス。Ulrich ハ非常ニ進歩的ナ學者的ナ人デアリマシテコ、デハ一切異壓裝置ヲ使用シナイト云ツテ居リ、又外科ノ療法ノ適應アルモノハ悉ク之ヲ實行シ出來ル丈ケ早ク arbeitsfähig ニスルコトヲ「モツトー」トシテ居ルト申シテ居リマス。蓋シ伯林ナドノ上層階級ノ罹病者ハ多ク瑞西ヤ南歐ニ轉地シ是等ノ病院ニ入ツテ來ルノハ下層ノ人々デアリマスカラ、長期間ノ内科ノ療法ニ堪ヘラレヌカラデアリマセウ。日本ナドデモ此様ナ性質ノ「サナトリウム」ガ社會施設トシテ各大都市ノ近郊ニ早ク建テラレネバナラナイト考ヘタコトデアリマシタ。ソレカラ外科醫ガモツト此方面ニ活動シナケレバナラナイト思ツタノデアリマス。

オスカーヘレネ癡疾院

伯林郊外 Dahlem ノ附近ニ Oskar-Helene 癡疾院ト云フノガアリ、伯林ヲ訪ツレル醫者ガー度ハ見ニ行ク有名ナ Krüppelheim デアリマス。不具者、虚弱兒ノ治療ト教養、授産トヲ目的トシ、之ニヨツテ不具癡疾ヲ變ジテ經濟的獨立ヲ得サセヨウト努メテ居ルノデアリマス。我國デモ東京ニ1個所出來タソウデアリマスガ、既ニ遅イ位デ少クトモ六大都市ニハ必要ナ社會施設デアリマセウ。建物ハ落葉樹ト常緑樹ノ森林ノ中ニ調和ヨク建テラレ廣イ森ハ恰モ公園ノ如ク設備サレ中ニ砂堀場ヤ平地ヤ横臥場ヤ日光浴場、投球場、競争場ナドガアリ、不具者癡疾者が整形外科ノ治療ヲ受ケ空氣日光等自然ノ要素ニヨツテ健康ヲ高メナガラ、教育ヲ受ケタリ仕事ヲ授ケラレタリスルノデアリマシテ、病弱兒ノ林間教育、病舎内教授ヤ女兒ノ裁縫、編物教授ナドガ目ニ付キマシタ。片手片足ノ不具者ガ義手義足ノ製造ニ従事シテ居リ、片手ノ子供ガ製本ヲヤツテ居リ、又片手ノ男ガ義手側ニ「ハンマー」ヲ持ツテ指物ヲヤツテ居リ、又義手デ畫寫ヤ「タイプライター」ヲ打ツテ居ルノモ見エマシタ。コウシテ病者自身ニハ生活保全ノ道ヲ確立サセ不生産者ヲ轉ジテ生産者トスルコトハ「ツ」ノ大キナ國家事業デアリマス。

獨逸外科學會ニ於ケル發表

昨年4月ノ第58回獨逸外科學會總會ニハ私ハ會長ノ Kirschner ヲ始メ Sauerbruch ヤ Borchard 等ノ盡力ニヨリ特別會員ニシテ貰ヒ、總會ニ於テ日本カラ持參ノ食道外科ノ Film ヲ公開シー場ノ講演ヲスルコトガ出來マシタ (Archiv für klinische Chirurgie, Kongressbericht 1934所載)。

原作ノ Film ハ其レ迄伯林大學 Charité ノ教室デ1回ト、Tübingen ノ教室デ2回見セマシタガ、學會デハ時間ノ關係デ原作ノモノカラ食道外科診斷ニ關スル部分、其他説明ノ所ナド幾分「カット」シテ發表シマシタ。獨逸外科學會デモ一題普通10分トナツテ居リマスガ、私ハ會長 Kirschner ノ好意ニヨリ私ノ演題ニハ30分ヲ與ヘラレ、其上、題ノ順位ヲ最後ニシテ時間ノ融通ヲ付ケテ貰ヒマシタ。ソレガ爲メ3月ノ末私ハ急イデ伯林ニ來テ早速 Ufa 會社ニ交渉シ約1週間通ツテ成ル可ク原形ヲ失ハナイ様ニ、且ツ30分デ出來ル様ニ Film ヲ作りカヘタノデシタガ、幸ヒ手術ニ關スル部分ハ少シモ切り除カズニ済ミマシタ。Ufa 會社デハ専門家等ガ多勢手傳ヒニ來タリ見ニ來テ居リマシタガ、皆大變賞賛シテ居リマシタ。ソレニツケテモ此様な優秀ナ Film ヲ寫シテ呉レタ當時ノ日活及ビ碧川技師ニ對シテ私共ハ深く感謝スルノデアリマス。

御承知ノ通り獨逸外科學會ト云フモノハ回ヲ重ヌルコト實ニ58回デアリ、其ノ間世界ニ貢獻シタコトニ於テ全世界何レノ學會ニモ劣ラヌノデアリマスガ、今日ニ於テモ彼等ハ其ノ自尊心ヲ維持シテ居ルノデアリマシテ毎年開會ノ際會長演説ニ於テモ常ニ全世界ノ指導的位置タルノ自覺ヲ高調シテ居ルノデアリマス。

會場ハ外科學會ノ常設館デアル Charité 病院前ノ Langenbeck-Virchow-Haus デアリマシテ、場内ニハ會員券持參者カ、又ハ前以テ求メタ Gastkarte 持參者ノ他ハ入場ヲ許シマセン。會場ニ入ルト正面ノ壁ノ中央ニ先ヅ目ニ付クノハ、祖國愛ヲ表徴スル Kaiser ノ肖像及ビ兩側ニ掲ゲラ

レタ三色ノ獨逸國旗ト、Hakenkreuz ノ「ナチス」旗デアリ、其ノ左右ノ上ニハ Langenbeck, Virchow ヲ始メトシ、Volkmann, Bergmann, Graefe, Thiersch, Braun, Wilms, Schede, Kocher, Bruns, Krönlein, Mikulicz, 下ニハ Billroth, Bardeleben, König, Esmarch, Gussenbauer, Czerny, Simon, Trendelenburg, Körte 等知名大家ノ肖像ガ懸ケラレ、是等ハ學會ノ先輩ト歴史ヲ尊重



第58回獨逸外科學會開會狀景

シ、後進ノ自覺ト向上ヲ刺激スルカニ感ゼラレルノデアリマス。演壇ハ中央一段高ク是等ノ肖像ノ前デ其下ノ會長席ニハ Kirschner, 其ノ左右ニハ前會長ノ Röpke ト幹事長ノ Borchard 其ノ横ニハ Sauerbruch, Lexer, Enderlen 等ガ皆聴衆ニ向キ合ツテ坐ツテ居リ誠ニ嚴肅

ナ氣分デアリマス。日本ノ學會ハ學者ノ有様ト對比シマスト誠ニ考ヘサセラレマス。

會長ハ會期4日間一瞬ト雖モ其席ヲ去ラズ嚴然タル座長振ヲ示シ、圖表ハ中央常設ノ「エヒチアスコープ」及ビ「ヂアホシティフ」ニ依テ少シノ雜音モ無ク、一瞬ノ無駄時間ヲ浪費スルコト無ク靜肅ニ演説ガ進行致シマス。演者ノ交代ニ際シテモ日本ノ學會ノ様ニ一々儀禮的ノ拍手ヲ送ル様ナコトハセズ演説内容ノ最優秀ナリト思ハル、モノニ對シテノミ選擇的ニ拍手ガ送ラレ、小聲デ解リ難イ様ナ演説ニハ遠慮ナク Laut! Laut! ガ頻發サレ、餘リニ冗長ニシテ時間空費的ナルモノニ對シテハ例ノ Katzenmusik 「足ズリ」ニヨリ早々ニシテ演壇ヨリ退去ヲ迫ラレタルモノモ稀ニハアリマシタ。即チ聴衆全體ガ立派ニ訓練サレ然モ一段ト高イ批判力ヲ持ツテ居リ、總テガ所謂垢拔ガシテ居ルノデアリマシテ、日本ノ現狀ト比較シ美マシク思ハズニハ居ラレマセン。

扱テ私ノ演題ハ第1日ノ夜ノ Lichtbilderabend ニ於テ行ハレタノデアリマスガ、私ノ演壇ニ立ツ前ニ會長 Kirschner ガ立ツテ紹介ノ勞ヲ取り、映畫ニ對シテ贊詞ヲ述ベタコトハ映畫ニ非常ニ光採ヲ添ヘルコトニナリ、又會衆ノ特別ノ注意ヲ惹クコトニナリマシタ。斯クシテ滯リナク靜肅裡ニ演説及ビ映畫示説ヲ終リ日本流ニオ辭儀ヲシテ降壇スルヤ聴衆カラ一度ニ萬雷ノ様ナ拍手ガ起リ、前列ニ座ツテ居タ2, 3, ノ教授連カラ握手ヲ求メラレタ様ナ次第デアリマシテ、吾々ノ目的デアル京都外科乃至日本外科ノ紹介ハ豫期以上ニ達セラレタ様デアリマシタ。ト申シマスノハ其後私が獨逸國內ヤ歐洲各地ノ大學ヲ巡歴致シマシテ至ル處デ食道外科ノ話ガ出、相當好イ印象ヲ彼等ニ與ヘテ居ルコトヲ知ツタカラデアリマス。今後「アルバイト」ヲ海外ニ宣揚シヨウト云フ様ナ場合、此度致シマシタ様ニ活動寫眞ヲ持參シ映畫示説ノ形デ發表スルコトガ、

他ノ何レノ方法ヨリモ最モ效果的デアルト感ジタノデアリマス。獨逸外科學會ハ殆ト歐洲各國カラ篤學ノ外科醫ガ出席スルノデアリマシテ會衆ノ「レベル」カラ見テモ又學問的眞劍サカラ見テモ、國際外科學會ナドヨリハ遙カニ上位ニアルト思ヒマスカラ、外科方面ノ仕事ハ機會ガ得ラル、ナラバコ、デ發表スルコトこそ一番世界的デアルト思ハレマス。

ザウエルブルッフ教授ヨリ噴門癌手術公開提議ノ顛末

私ハ伯林ヘ着イタ年ノ夏迄デ Charité Klinik ノ見學ヲ打チ切り、9月カラ Tübingen ヘ參ツテ居タノデアリマスガ、11月頃 Sauerbruch ノ所カラ呼バレテ例ノ食道外科ノ Film ヲ見セニ歸リマシタ。其時助教授ノ Rütz ヤ助手ノ Fulde ナドカラ話ガアリ、Geheimrat ガ私ニ是非噴門癌ノ手術ヲシテ見セテ貰ヒタイト云ツテ居ルニ依テ、直接教授ト打チ合セテ呉レヨト云フコトデアリマシタ。Sauerbruch ニ會ヒマスト彼ハ非常ニ丁寧ニ且ツ非常ニ熱心ニ、君ノ手術方法ニヨル噴門癌手術ヲ Charité デヤツテ見セテ貰ヒ度イト云フコトヲ、縷々繰返シテ云ハレルノデアリマス。助手ニハ前記 Rütz, Fulde 兩君ヲ付ケルコト、患者ハ2週間前迄ニ通知シテ呉レ、バ何時デモ準備スルコト云フコトモ附ケ加ヘラレマシタ。私ハ個人的ニハ成ル可ク貴意ニ添ヒ度イト思フノデアルガ、自分ハ政府カラ派遣サレテ居ル身分デアルカラ、何分自由行動ハ出來ナイ境遇ニアルコトヲ諒解セラレ度イ、何レ本國ニ問合セテ御返答申上ゲヨウト答ヘ、其際ハ教室ノ人々ニ Film ヲ見セテ Tübingen ヘ戻ツタノデアリマシタ。私ハ Tübingen カラ早速事ノ顛末ヲ先生方ノ所ヘ郵便デ申上ゲ、相當緊張シタ氣持デ御指圖ヲ待ツテ居タノデアリマスガ、若シ愈々手術ヲ決行スルトナルト、事ハ日本外科ノ名譽ニモ關スル故出來得可クンバアノ當時私ノ助手トシテ常ニ一緒ニ手術ヲシタ山根(現滿大助教授)、藤浪、赤木、福間君等ノ中一人デモ來テ貰ヘナイダラウカト考ヘタノデシタ。手術ハ勿論、術前術後ノ處置等、氣心ノ合ツタ者一人ニ來テ貰フコトハ此際好結果ヲ期待スル上ニ於テ絶對條件デ、若シ一人來ラレルナラバ Fall サヘヨケレバ先ヅ大丈夫ト思ツテ居リマシタ。其中ニ12月3日付デ烏潟先生カラ手術ノ件ニ關スル詳細ノ御返事ヲ頂戴致シマシタ。先生ハ非常ニ慎重ニ御取計ヲヒ下サイマシテ、公式ニ教授會ニモオ掛けニナリ諸先生ノ御意見ヲオ求メナラレタ様子デアリマシタ。即教授會デハ手術ハ原則的ニハヤツテ宜イガ種々ノ事情ヲ顧慮シ、オイスレト手術セヌガヨイト云フコトデアリ、獨逸國ニテ醫術ヲ行フノ權利無キ日本人醫師タル私ガ手術ヲ行ヒタル結果萬一患者死亡シタ場合獨逸ニテ法律上ノ問題ヲ惹起スル怖レガアルトノコトデアリマス。此點小南先生モ同意見デアラレ先生方モ大ニ御心配ニナツテ居ラレルコトヲ御手紙デ拜察出來マシタノデ私モ此點大ニ慎重デナケレバナラナイト考ヘタコトデシタ。此事ニ就テ例ヘバ在留日本人ヲ吾々が治療スルコトデスラ實際公式ニハ面倒ダト云フ位デアリマシテ、曾テ永井駐獨大使ガ奇禍ニ遭ツタ際ニモ當時伯林ニ滯在中ノ日本人醫師ダケデ治療スルコトガ問題ニナリ、獨逸人ノ醫者ヲ一人加ヘタト云フコトヲ聞イテ居リマス。其後私ガ伯林ヘ參リマシタ時丁度東大ノ眞鍋教授ニ會ヒ手術交渉ノ話ガ出タ際ニ同教授モ全く同様ノ意見ヲ持ツテ居ラレ、大使ニ相談スル様ニ薦メラレマシタ。

兎＝角 Sauerbruch へノ返答ヲ早クセネバナリマセンガ先生カラ返事ノ要項トシテ御提示下サイマシタコトハ次ノ4項デアリマシタ。

1) 大澤ガ手術スル＝就テハ gesetzlich = vollkommen berechtigt ノ状態＝置カレネバナラスガ此點ハ差支ヘナキカ(獨逸政府ガ大澤ヲ1時的デモ Universitätsprofessor トシテ任命スルコトヲ日本政府ヘ交渉シ實現スル事等)。

2) 大澤ガ手術スル＝就テハ慣レタ日本人ノ助手ガ一人ハ是非入要デアルガ其レヲ公式＝呼ンデ呉レルカ如何。

3) 以上ノ2件ガ出來ヌナラバ自分ハ獨逸＝テ患者ヲ手術スルコトハ出來カネル(ツマリ Sauerbruch ノ個人的ノ希望＝テ大澤タル公人ガ獨逸國ノ法律＝違背スル様ナ行爲ハ出來兼ル)。

4) 併シ犬＝就テ Cardiaresektion ノ仕方ヲ御覽＝入レル事ガ出來ルカラソレナラバ日本人ノ助手無シ＝デモマタ gesetzlich = berechtigt デアル可キコトモ必要デ無キ故ヤツテ御目ニカケテモヨイ。

私ハ早速次ノ様ナ手紙ヲ認メ書留郵便ヲ以テ直接 S 教授宛差出シ第4項及ビ其他ノ細々シイコトハ助手ノ Fulde 宛認メタノデアリマシタ。Fulde ハ Charité 教室デ S 教授ノ代理外交ヲヤル男デ前カラ時々 Film ノコトナドデ S 教授ノ命ヲ受ケ Tübingen ノ私ノ所ヘ手紙ヲ呉レタコトガアツタカラデス。

Sehr geehrter Herr Geheimrat Professor!

Ende vorigen Jahres hatten Sie die Liebenswürdigkeit, mir vorzuschlagen, in Ihrer Klinik einen Fall von Cardiaresektion zu demonstrieren. Ich bin Ihnen für dieses Angebot sehr dankbar, aber leider konnte ich Ihnen damals keinen definitiven Bescheid geben. Ich bin nicht privat in Deutschland, sondern von der japanischen Regierung geschickt, und diese meine Stellung macht es mir unmöglich, über meine Entschlüsse selbst zu disponieren. Ich schrieb daher an meinen Chef in Japan, um ihm die Angelegenheit vorzutragen. Nachdem ich vor kurzer Zeit seine Answer erhalten habe, bin ich nun zu der folgenden Ansicht gekommen:

1) Da ich in Deutschland nicht privat weile, ist es nötig, dass bei dieser Operation meine Stellung gerichtlich vollkommen gesichert wird, d. h., dass ich nicht sozusagen als Privatmann operiere, Beispielsweise wäre es möglich, mich zu diesem Zwecke zu einem temporären ordentlichen Professor an der Charité-Klinik zu ernennen. In diesem Falle wäre es nötig, dass von seiten der deutschen Regierung der japanischen Regierung ein dahingehender Antrag gemacht wird; erst wenn die japanische Regierung der deutschen Regierung eine bejahende Antwort gibt, kann ich von der deutschen Regierung zu einem solchen Professor ernannt werden.

2) Ferner müsste man mir unbedingt einen geübten japanischen Assistenten zur Verfügung stellen. Sollten alle diese Punkte zu meiner Zufriedenheit erledigt werden, so wäre ich selbstverständlich sehr gerne bereit, eine derartige Operation vorzunehmen. Sollte eine solche

Regelung aber nicht möglich sein, so müsste ich zu meinem grössten Bedauern von der Operation zurtücktreten.

Mit ganz vorzüglicher Hochachtung

Ihr sehr ergebener

T. Ohsawa

此ノ私カラノ手紙ニ對シS教授カラハ程經テ左ノ如キ返事ガ書留郵便デ届キマシタ。

Sehr geehrter Herr Kollege!

Ihr Vorschlag ist etwas ungewöhnlich. Es ist doch in der ganzen Welt gebräuchlich, dass Chirurgen, die an fremden Kliniken zu Gast weilen, besondere Eingriffe, deren Technik sie ausgearbeitet haben und vielleicht besser beherrschen als andere, demonstrieren. Die Verantwortung für einen solchen Eingriff, der selbstverständlich nur mit Einverständnis des betreffenden Kranken ausgeführt werden darf, übernimmt der Leiter der Klinik, in diesem Falle also ich. Dazu ist es auch meiner Meinung nach nicht nötig, gerichtliche oder gar politische Verhandlungen anzuknüpfen. Ich selbst habe im Ausland unter ähnlichen Verhältnissen so oft operiert auf Wunsch anderer Chirurgen, dass ich dazu wirklich keinen Grund einsehe, warum man von dem sonst üblichen Verfahren abweichen sollte.

Der Wunsch nach einem japanischen Assistenten ist dagegen berechtigt und liess sich leicht ausführen. Wenn Sie mit mir einmal über diese Sache sprechen wollen, stehe ich Ihnen immer mittags zur Verfügung.

Mit vorzüglicher Hochachtung

Sauerbruch

此返事ヲ受取ツテカラ數回S教授ヲ訪問シタケレドモ旅行中ナドデ會ウコトガ出來ズ, 其中自分モ旅行シナケレバナラス時ガ迫ツタノデ, 止ムナク Fuldeニ會ヒ自分ガ最初ニ通告シタ要求ガ全部容レラレナイ様ナラバ, 遺憾乍ラ手術ハ出來ナイ旨ヲS教授ニ傳言スルコトヲ依頼シテ置イタノデアリマシタ。爾來私ハ歐州各大學ノ巡歴旅行ヤ瑞西ニ於ケル萬國放射線學會出席ヤ其他「クルズス」等ニ追ハレS教授ニ會フ暇モ無ク, S教授カラモ其後ハ交渉絶エ此話モ自然消滅ニナツタ様ナ形ニナリマシタ。

手術ノ問題ハ以上ノ様ナ次第デアリマシテ私一個人トシマシテハ遂ニ手術スルニ至ラナカッタコトハ實ニ残念デアリマシタ。先生方ヤ教室ノ諸君モ左様感ゼラル、デアリマセウガ事情御推察ヲ願ヒ度イノデアリマス。